

キュウリ春作／施肥事例

沖縄本島南部にモデル圃場を設置し、慣行栽培と特別栽培の比較栽培を行いました。
ここでは、春作の特裁区における土壌診断結果及び施肥設計、実際の施用状況をご紹介します。

栽培概要

※慣行区は県の栽培要領に従う

作型	春作	品種	MTフェニックス（自根）
株間	50cm	栽培面積	0.72a
条間	1条	栽培期間	2024/3/6 ～ 5/13（収穫4/6～5/13）
	千鳥で両サイドに誘引	土づくり	特になし
畦幅	180cm		ただし前作（p.37冬作）で心土破碎、緑肥実施

特裁区の土壌分析と基肥

ジャーガル

【土壌診断結果と施肥設計】

項目	単位	基準値 (ジャーガル)	特裁区 土壌診断結果	ジャーガルでの施肥の考え方
pH(H ₂ O)	—	7.0-8.0	8.4	pHが高いため、アルカリ資材の使用を控える
電気伝導率(EC)	mS/cm	0.3以下	0.16	基準値内のため調整不要
交換性カルシウム(CaO)	mg/100g	700<	1452.5	ジャーガルではカルシウムは基準値よりも大きいことが一般的なので調整しない
交換性マグネシウム(MgO)	mg/100g	60-120	90.3	・マグネシウムは基準値内だが下限 ・カリウムは基準値を超えている
交換性カリウム(K ₂ O)	mg/100g	19-38	69.0	・カリウム過剰により、Mg/K比は基準値に満たない →マグネシウムを基肥で基準値内で施用し、 Mg/K比を調整する
Mg/K比	—	7.0-8.0	3.1	
Ca/Mg比	—	—	11.5	ジャーガルでは調整不要
陽イオン交換容量(CEC)	mg/100g	25<	19.8	基準値よりも低いため、栽培終了後に緑肥栽培（今回は時間なし）
可給態リン酸	mg/100g	10<	45.6	50mg/100g以上で過剰となるため、調整不要
アンモニア態窒素	mg/100g	0-2.0	0.6	基準値内のため調整不要
硝酸態窒素	mg/100g	0-4.0	1.2	基準値内のため調整不要（残肥を考慮して減肥を検証）

施肥事例：基肥のポイント

- ・前作の残肥を考慮し、春作は短期間で終了する可能性があるため、基肥は控えめにして追肥で調整しました。
- ・また、前作から栽培開始までの腐熟期間が十分に確保できず、残渣が分解しきれていない恐れがあるため、残渣の分解促進剤を使用しています。



【基肥の施肥内容】

単位：kg/10a

使用した資材	施用量	成分量				
		窒素		リン	カリ	マグネシウム
		化学由来	有機由来			
土力全快	45	0.297	1.053	1.35	0.45	0.45
ハイパーCDU566	40	6.0	0	2.40	2.40	0.40
ひまわり有機	140	0	2.7531	4.872	4.354	0
硫酸マグネシウム	178	0	0	0	0	44.50
成分量合計		6.297	3.8061	8.62	7.2	45.35

成分比（N:P:K:Mg） 土力全快※ 3：3：1：1
ハイパーCDU566 15：6：6：1
ひまわり有機 3.45：3.48：3.11：0
（窒素肥効率57%）
硫酸マグネシウム 0：0：0：25

1

施肥基準に近い
NPKバランスの
有機質肥料

- ・マグネシウムは改良目標値を120mg/100gに設定して施用し、Mg/K比3.8まで改善（深さ15cmまで改良）
- ・Mg/K比は基準値に及ばないため、追肥でマグネシウムを施用

※15kg当たり窒素量の内訳化学由来0.099kg、有機質由来0.351kg

特裁区の追肥

春作・特裁区の追肥は、化成液肥を希釈1000倍で週2～3回に分けて施した。冬作より生育が早いため、肥切れを起こさないよう開花後早めに追肥を開始し、草勢を見ながらアミノ酸肥料を葉面散布したり、カリウム肥料を施用したりした。また、遮光ネットを設置しているため、曇天時は特にアミノ酸肥料やマグネシウム肥料を葉面散布し、光合成の促進を図った。

特裁区の追肥内容

単位：％、kg/10a

回	時期	資材名	成分比					施肥量	成分量				
			窒素		リン酸	カリ	マグ		窒素		リン酸	カリ	マグ
			化学由来	有機由来					化学由来	有機由来			
1	開花始め (3月下旬)	2号液肥	10	-	5	8	-	30	3.0	-	1.50	2.40	-
		精製塩化カリ	-	-	-	60	-	1.5	-	-	-	0.90	-
2	収穫開始 (4月上旬)	2号液肥	10	-	5	8	-	30	3.0	-	1.50	2.40	-
		精製塩化カリ	-	-	-	60	-	2	-	-	-	1.20	-
		葉面マグ	-	-	-	-	16	10	-	-	-	-	1.6
		ナチュラミンゴールド	-	11.5	2	1	-	0.5	-	0.0575	0.01	0.005	-
3	30日おき (5月)	2号液肥	10	-	5	8	-	40	4.0	-	2.00	3.20	-
		精製塩化カリ	-	-	-	60	-	4	-	-	-	2.40	-
		葉面マグ	-	-	-	-	16	10	-	-	-	-	1.6
		ナチュラミンゴールド	-	11.5	2	1	-	0.5	-	0.0575	0.01	0.005	-
成分量合計									10.0	0.115	5.02	12.51	3.2

※特裁基準を超えないよう、草勢の状況に合わせて追肥をコントロールした。

圃場の様子



通風採光の仕立て・管理

千鳥植えの畝の両側に15～20cm目合いのネットを設置し、空間を確保しながら誘引して通風採光を図った。

また、冬作に比べて温度が高く、葉の展開が速いため小まめに摘葉した。



灌水管理で根焼け回避

地温が上がる日中、上の写真のように株がしおれているときに灌水すると根焼けを起こす恐れがあるため、早朝または夕方に灌水して、日中はなるべく湿度を保つよう心がけた。



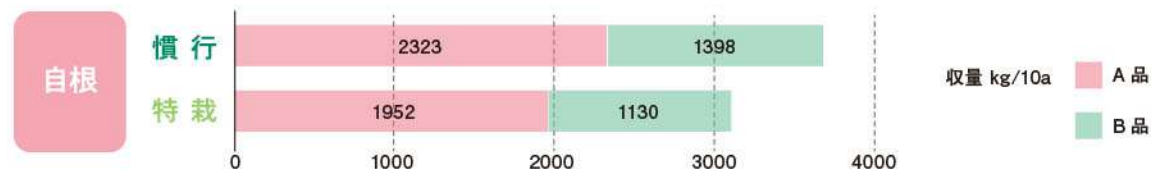
遮光ネット×葉面散布

遮光ネットでハウス内の温度上昇を抑える一方、光合成効率が低下して草勢が落ちないよう、曇天時にはアミノ酸やマグネシウム等の液肥を葉面散布した。

特裁区の収量

特裁区の収量は、慣行区の8割にとどまった。特裁区で発生した病気の診断を誤り、別の病気だと判断して対応したため、適切な防除ができず病気が蔓延し、減収の要因となった。
→p.50 参照

モデル圃場（ジャーガル）における等級別・春作キュウリ収量【令和6年度実績】



コスト比較

特裁区の肥料コストは、慣行区を若干上回った。これは、特裁区で病気の被害が拡大し、草勢の回復を図ってアミノ酸肥料を追加したため、追肥部分のコストがかさんだことによる。

ただし、特裁区の基肥部分のコストについては、比較的安価な有機質肥料（主成分：鶏ふん）を用いたことから、慣行区よりも低く抑えることができた。春作では、冬作よりも地温が高く、生育が早くなるため、肥切れを起こさないよう一部緩効性の化成肥料を使いつつ、比較的窒素含量が高く分解の早い鶏ふんを活用した。

モデル圃場における肥料コスト比較

区画	施用時期	肥料名	肥料価格(円/袋) 2024年11月時点	袋数 (袋/10a)	容量 (kg/袋)	肥料コスト (円/10a)
慣行栽培 ※県栽培要領に準ずる	基肥	土力全快	3,477	3.0	15	10,431
		ハイパーCDU566	3,538	4.6	20	16,275
		硫酸マグネシウム	2,244	9.0	20	20,196
	追肥	2号液肥	4,375	5.1	20	22,313
		精製塩化カリ	4,792	0.3	25	1,438
		葉面マグ	1,494	2.0	10	2,988
慣行栽培コスト合計						73,641

区画	施用時期	肥料名	肥料価格(円/袋) 2024年11月時点	袋数 (袋/10a)	容量 (kg/袋)	肥料コスト (円/10a)
特別栽培	基肥	土力全快	3,477	3.0	15	10,431
		ハイパーCDU566	3,538	2.0	20	7,076
		ひまわり有機	389	9.3	15	3,618
		硫酸マグネシウム	2,244	9.0	20	20,196
	追肥	2号液肥	4,375	5.0	20	21,875
		精製塩化カリ	4,792	0.3	25	1,438
		葉面マグ	1,494	2.0	10	2,988
		ナチュラミンゴールド	8,433	1.0	1	8,433
特別栽培コスト合計						76,055

※この比較表は、2024年11月時点までにモデル圃場で発生した土づくり及び肥料にかかる費用を集計したものです。

キュウリ春作／病害虫管理の考え方

春作は、気温の上昇に伴って害虫の発生リスクが高まり、台風リスクも加わるため、結果的に短期栽培となる傾向があります。

特裁基準では化学合成農薬の散布回数を12回以内に抑えるため、害虫を入れない環境づくりと初期防除が重要になります。親づるの摘心までは害虫対策を徹底してウイルス病を防ぎ、台風前後は病気の予防・治療散布を心掛けましょう。

ウイルス抵抗性品種の選択

春作では、害虫を介したウイルス病が発生しやすいため、主要なウイルス病の抵抗性品種を選択する。

台風・通り雨対策と草勢回復

- 台風前は、節減対象農薬**以外**の農薬である銅剤などで予防散布する。
- 台風後は、状況に応じて治療剤をなるべく早く散布する。
- 通り雨は予想が難しい一方、頻発すると病気が発生しやすくなるため、定期的な予防散布を心掛ける。
- 台風・通り雨の後は葉や根が傷むため、アミノ酸肥料の葉面散布により草勢回復に努める。

温度・湿度管理

- 春作では、施設内の温度上昇による苗のしおれや葉焼けを防ぐため、遮光ネットを設置する。
- 遮光ネットは、施設内の風通しが悪化しないよう、屋根の上に設置するとよい。
- 日中、施設内が高温になって乾燥すると、気孔が閉じて光合成効率が悪化するため、湿度が下がるときは通路灌水を行う。



遮光ネットはできるだけ高く外側に設置しましょう

気門封鎖剤の定期散布

- 節減対象農薬**以外**の農薬である気門封鎖剤等を葉面散布時に混用し、害虫密度の低減に努める。
- 害虫は早期発見を心掛ける。ウイルスの媒介虫（アザミウマ類、アブラムシ類）には特に注意する。
- 害虫を見つけたら、発生初期で殺虫剤を散布する。

キュウリ春作／防除事例

沖縄本島南部に設置したキュウリ春作のモデル圃場における農薬散布実績を特裁区と慣行区についてご紹介します。

農薬散布実績

栽培概要 : 45ページ参照
散布期間 : 2024/3/6～5/13
節減対象農薬使用回数 : **9回 慣行基準（25回）の50%（12回以下）削減で特裁基準達成**
特裁区における対策 : 特裁区と慣行区の両方で収穫前の葉に斑点が現れ、斑点細菌病と判断して農薬を散布した。しかし、その後特裁区でのみ病状が進行し、斑点細菌病ではなく褐斑病であったと判明した。
慣行区ではべと病治療のためアミスター20フロアブルを散布し、結果として褐斑病の進行も抑えられた一方、特裁区で散布したカスミンボルドーはキュウリの褐斑病に適用がなく、被害が拡大し、草勢回復が難しくなった。
その結果、収穫期間が1カ月に縮まった。



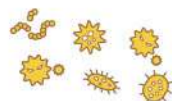
◀ 褐斑病の初期症状
斑点と葉表の破れから斑点細菌病と誤診してしまった（写真赤丸の箇所）
間違えやすい症状の見分け方 → p.34参照

キュウリ（春作）のモデル圃場（南部）における時期別農薬散布状況の比較

散布時期	対象	特裁区	特裁区における特記事項	慣行区
定植時	アザミウマ類、コナジラミ類	① アリロソ 粒剤 オメガ	—	①アルバリン粒剤
	つる割病	②ベンレート水和剤	土壌灌注	②ベンレート水和剤
収穫前	コナジラミ類	サフオイル乳剤（—）	—	③アルバリン顆粒水溶剤
	べと病	兼商クプロシールド（—）	予防散布	—
	べと病	③ダコニール1000	予防散布	④ダコニール1000
	アザミウマ類、コナジラミ類	④グレーシア乳剤	ウイルス株（黄化えそ病）が発生したため	⑤グレーシア乳剤
	斑点細菌病	⑤カスミンボルドー	褐斑病を斑点細菌病と誤診して使用	⑥カスミンボルドー
	べと病	兼商クプロシールド（—）	慣行区ではべと病治療で使用した農薬が褐斑病にも適用があり被害が抑えられたが、特裁区では誤診と判明するまで被害が拡大した。	—
	べと病、褐斑病	—	—	⑦アミスター20フロアブル
収穫期	コナジラミ類	サフオイル乳剤（—）	—	—
	アザミウマ類、コナジラミ類	—	—	⑧ベネビアOD
	アザミウマ類、コナジラミ類	⑥モベントフロアブル	—	⑨モベントフロアブル
	褐斑病	⑦アミスター20フロアブル	—	⑩アミスター20フロアブル
	コナジラミ類	⑧トランスフォームフロアブル	—	⑪トランスフォームフロアブル
	べと病	⑨アリエッティ水和剤	—	⑫アリエッティ水和剤
節減対象成分使用回数		9回		12回
使用した節減対象農薬 以外 の農薬の種類		2種類	※サフオイル乳剤は葉面散布で追肥する際などに混用し、複数回散布（混用表を参考に選択）	

※ 表中、特裁区欄の緑色は節減対象農薬**以外**の農薬、赤色は**選択性殺虫剤**を示す。

キュウリの主要病害登録殺菌剤一覧



FRACコード	系統区分	病害虫名 農薬商品名	べと病	褐斑病	うどんこ病	斑点細菌病	つる割病	ネコブセンチュウ	センチュウ類	節減対象 農薬以外の 農薬(※1)◎
ー	その他(気門封鎖剤)	ムシラップ			●					
		粘着くん液剤			●					
		フーモン			●					
		エコピタ液剤			●					※本剤の取扱いについては、登録 支援課にお問い合わせください
		サフオイル乳剤			●					◎
NC	脂肪酸(気門封鎖剤)	アカリタッチ乳剤			●					
		サンクリスタル乳剤			●					
NC	炭酸水素塩	カリグリーン			●					
		ハーモメイト水溶剤			●					
NC、M01	炭酸水素塩、無機銅	ジーファイン水和剤			●	●				
BM2	微生物	タフパール			●					
		インプレッションクリア			●					
		バチスター水和剤			●					
		ボトキラー水和剤			●					
		パストリア水和剤					●			◎
ー		ボタニガードES			●					
M01	無機銅	Zボルドー	●			●				
		クプロシールド	●			●				
		コサイド3000				●				
M02	無機硫黄	イオウフロアブル			●					
		クムラス			●					
		硫黄粉剤50			●					
3	EBI	トリフミン水和剤			●					
		ラリー水和剤			●					
IRAC:8A、8F	MITC、その他	ディトラベックス油剤				●		●		
9	アニリノピリミジン	フルピカフロアブル		●	●					
M5、40	アミノ酸アミドカーバメート、有機塩素	プロポーズ顆粒水和剤	●	●	●					
U6、3	オキシムエーテル、EBI	パンチョTF顆粒水和剤			●					
IRAC:1A	カーバメート	バイデイトL粒剤					●			
7	カルボキシアミド	カンタスドライフロアブル		●						
M10、 IRAC:UN	キノキサリン	パルミノ			●					
		モレスタン水和剤			●					
M7	クアニジン	ベルコートフロアブル		●	●					
		ベルコート水和剤		●	●					
27、40	シアノアセトアミド、アミノ酸アミドカーバメート	ベトファイター顆粒水和剤	●							
M5、27	シアノアセトアミド、有機塩素	ブリザード水和剤	●	●	●					
21	シアノイミダゾール	ランマンフロアブル	●							
11	ストロビルリン	アミスター20フロアブル	●	●	●					
		ストロビーフロアブル	●	●	●					
11、M5	ストロビルリン、有機塩素	アミスターオブティフロアブル	●	●	●					
21	その他	ライメイフロアブル	●							
M03		バスアミド微粒剤				●				
21A		サンマイトフロアブル			●					

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。(詳細はp.20参照)
 ※ 表の農薬は、令和6年度病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類、キュウリで当該病害に適用があるものを記載しています。
 ※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

F R A C コード	系 統 区 分	病 害 虫 名		べと病	褐斑病	うどんこ病	斑点細菌病	つる割病	ネコブセンチュウ	センチュウ類	節減対象 農薬以外の 農薬(※1)◎
		農 薬 商 品 名									
ー	その他	日農スプレーオイル				●					◎
IRAC:8A		DC油剤							●		
		D-D							●		
		テロン							●		
IRAC:8F		キルパー					●	●			
21、27	その他、シアノアセトアミド	ダイナモ顆粒水和剤		●							
U13、9	チアゾリジン、アニリノピリミジン	ショウチノスケフロアブル				●					
7	チオフェン系	アフエットフロアブル				●					
7、M5	チオフェン系、有機塩素	ベジセイバー		●	●	●					
7	ピラジンビフェニル型カルボキサミド	パレード20フロアブル			●	●					
7	フェナシルアミド	ケンジャフロアブル			●	●					
M5、4	フェニルアמיד、有機塩素	フォリオゴールド		●	●	●					
10、2	ジエトフェンカルブ、ジカルボキシイミド	スミブレンド水和剤			●						
10、1	ジエトフェンカルブ、ベンズイミダゾール	ニマイバー水和剤			●						
12	フェニルピロール	セイビアーフロアブル20			●						
39、IRAC:21A	フェノキシベンジルアミド	ハチハチ乳剤		●	●	●					
1	ベンズイミダゾール	トップジンM水和剤				●					
		ベンレート水和剤						●			
50	ベンゾイルピリジン	プロバティフロアブル				●					
40	桂皮酸	フェスティバル水和剤		●							
40、M1	桂皮酸、無機銅	ホクコーフェスティバルC水和剤		●							
19	抗生物質	ポリオキシシンAL乳剤				●					
24、M1	抗生物質、無機銅	カスミンボルドー		●		●	●				◎
		カッパーシン水和剤		●		●	●				※回数制限あり
P2	抵抗誘導	オリゼメート粒剤					●				
P07	有機リン	アリエッティ水和剤		●							
ネマキック液剤							●				
ネマキック粒剤								●			
石原ネマトリンエース粒剤								●			
M5	有機塩素	ダコニール1000		●	●	●					
		ダコニール粉剤		●							
M4		オーソサイド水和剤80		●	●						
IRAC:8B		クロールピクリン						●		●	
	クロルピクリン錠剤						●		●		
M4、M1	有機塩素、有機銅	オキシラン水和剤		●			●				
M1	有機銅	サンヨール		●		●					
		ヨネボン水和剤		●	●	●	●				
		キノンドーフロアブル		●			●				
M3、 IRAC:UN	有機硫黄	ベンコゼブフロアブル		●	●						
		ベンコゼブ水和剤		●	●						
		ジマンダイセンフロアブル		●	●						
		ジマンダイセン水和剤		●	●		●				
M3、4	有機硫黄、フェニルアמיד	リドミルゴールドMZ		●							
M3、1	有機硫黄、ベンズイミダゾール	ベンレートT水和剤20						●			

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。(詳細はp.20参照)
 ※ 表の農薬は、令和6年度病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類、キュウリで当該病害に適用があるものを記載しています。
 ※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

キュウリの主要害虫登録殺虫剤一覧



IRACコード	系統区分	病虫害名 農業商品名	アザミウマ類 アザミウマ	コナジラミ類	チャノホコリダニ	アブラムシ類	選択性殺虫剤 (※2)／○ の農業(※1)／◎ 節減対象農業以外
—	気門封鎖剤	オレート液剤		●		●	
		ムシラップ		●		●	
		粘着くん液剤		●		●	
		フーモン		●		●	
		エコピタ液剤		●		●	※本剤の取扱いについては、登録支援課にお問い合わせください
	脂肪酸(気門封鎖剤)	サフオイル乳剤		●	●	●	
		サンクリスタル乳剤		●		●	
	天敵農業	アリガタ(アリガタシマアザミウマ)	●				
		エンストリップ(オンシツツヤコバチ)		●			
		ククメリス(ククメリスカブリダニ)	●				
		ククメリスEX(ククメリスカブリダニ)	●				
		メリトップ(ククメリスカブリダニ)	●				
		アフィパール(コレマンアブラバチ)				●	
		コレトップ(コレマンアブラバチ)				●	
		システムスワルくんロング(スワルスキーカブリダニ)	●	●	●		◎
		スワマイト(スワルスキーカブリダニ)	●	●			
		スワルスキー(スワルスキーカブリダニ)	●	●	●		
		スワルスキープラス(スワルスキーカブリダニ)	●	●	●		
		タイリク(タイリクヒメハナカメムシ)	●				
		リクトップ(タイリクヒメハナカメムシ)	●				
		リモニカ(リモニカスカブリダニ)	●	●	●		
UNF	微生物	マイコタール		●			
		ボタニガードES	●	●		●	
		ボタニガード水和剤	●	●		●	
30	イソオキサゾリン	グレーシア乳剤	●	●			
1A	カーバメート	バイデートL粒剤	●			●	
UN	キノキサリン	パルミノ		●			
		モレスタン水和剤		●			
28	ジアミド系	ブリロップ粒剤オメガ	●	●		●	○
		ベネビアOD	●	●		●	
		ベリマークSC	●	●		●	
		ヨーバルフロアブル	●	●		●	
28、4A	ジアミド系、ネオニコチノイド	ミネクトデュオ粒剤	●	●		●	
5	スピノシン	ディアナSC	●	●			
		スピノエース顆粒水和剤	●				◎ ※回数制限あり
4C	スルホキシイミン	トランスフォームフロアブル		●		●	○
21A	その他	サンマイトフロアブル		●		●	
9B		コルト顆粒水和剤		●		●	
4A	ネオニコチノイド	モスピラン粒剤				●	
		モスピラン顆粒水溶剤	●	●		●	
		アドマイヤー1粒剤	●	●		●	
		アドマイヤーフロアブル	●			●	
		アドマイヤー水和剤	●	●		●	
		アドマイヤー顆粒水和剤	●	●		●	

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農業として有機JAS規格で使用可能な農業及び特定農業等があります。(詳細はp.20参照)
 ※2 対象害虫に対して高い殺虫効果を発揮し、対象外の昆虫等には影響の少ない殺虫剤。本マニュアルでは、「天敵等への殺虫・殺ダニ剤の影響(日本生物防除協議会)」を参考に天敵農業(キュウリではスワルスキーカブリダニを対象天敵とする)への影響が少ないことが報告されている殺虫剤を選択性殺虫剤と定義し節減対象農業となるため、使用回数カウントされます。
 ※ 表の農業は、令和6年度版病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類、キュウリで当該害虫に適用があるものを記載しています。
 ※ 農業登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
 農業登録は随時更新されるので、農業の使用にあたっては、必ず最新の農業登録情報を確認すること。

IRACコード	系統区分	病虫害名 農業商品名	アザミウマ類 アザミウマ	コナジラミ類	チャノホコリダニ	アブラムシ類	選択性殺虫剤 (※2)／○ の農業(※1)／◎ 節減対象農業以外
4A	ネオニコチノイド	ダントツ水溶剤	●	●		●	
		ダントツ粒剤	●	●		●	
		アルバリン粒剤		●	●	●	
		アルバリン顆粒水溶剤		●	●	●	
		スタークル粒剤		●	●	●	
		スタークル顆粒水溶剤		●	●	●	
		バリアード顆粒水和剤				●	
		アクタラ粒剤5		●		●	
		アクタラ顆粒水溶剤		●		●	
		ベストガード水溶剤	●	●		●	
		ベストガード粒剤		●	●	●	
4A、28	ネオニコチノイド、ジアミド系	アベイル粒剤		●	●	●	
21A	ピラゾール	ピラニカEW				●	
9B	ピリジンアゾメチン	チェス顆粒水和剤		●		●	○
29	ピリジナルボキサミド系	ウララDF		●		●	
3A	ピレスロイド	アーデント水和剤				●	
		トレボンEW		●		●	
		トレボン乳剤		●		●	
		トレボン粉剤DL				●	
		アグロスリン水和剤	●			●	
		アグロスリン乳剤	●			●	
		テルスターフロアブル				●	
		テルスター水和剤				●	
		ロディー乳剤				●	
		マブリック水和剤20				●	
		アディオン乳剤				●	
13	ピロール	コテツフロアブル	●				
21A、16	フェノキシピラゾール、IGR脱	アブロードエースフロアブル		●			
21A、FRAC:39	フェノキシベンジルアミド	ハチハチ乳剤		●	●	●	
UN	プロベニルオキシフェニル	ブレオフロアブル		●			
15	ベンゾイル尿素 (IGR脱皮阻害)	兼商デミリン水和剤	●				
		カスケード乳剤	●				○
		マッチ乳剤			●		
6	マクロライド	アグリメック		●	●		
		アフーム乳剤		●	●		
		コロマイト乳剤			●	●	◎ ※回数制限あり
		アニキ乳剤			●		
6、15	マクロライド、ベンゾイル尿素(IGR脱皮阻害)	アフームエクセラ顆粒水和剤	●				
23	環状ケトエノール	モベントフロアブル		●	●	●	
一、5	脂肪酸、スピノシン	ダブルシューターSE		●	●		
1B	有機リン	スミチオン乳剤		●		●	
		オルトラン粒剤		●		●	
		マラソン乳剤				●	
—	有機銅	サンヨール			●	●	

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農業として有機JAS規格で使用可能な農業及び特定農業等があります。(詳細はp.20参照)
 ※2 対象害虫に対して高い殺虫効果を発揮し、対象外の昆虫等には影響の少ない殺虫剤。本マニュアルでは、「天敵等への殺虫・殺ダニ剤の影響(日本生物防除協議会)」を参考に天敵農業(キュウリではスワルスキーカブリダニを対象天敵とする)への影響が少ないことが報告されている殺虫剤を選択性殺虫剤と定義し節減対象農業となるため、使用回数カウントされます。
 ※ 表の農業は、令和6年度版病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類、キュウリで当該害虫に適用があるものを記載しています。
 ※ 農業登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
 農業登録は随時更新されるので、農業の使用にあたっては、必ず最新の農業登録情報を確認すること。

本マニュアルは、

特別栽培農産物認証等推進・普及事業（沖縄振興特別推進交付金）における

特別栽培農産物認証の栽培マニュアル作成委託業務（委託先：株式会社マイファーム）の

成果を活用して作成しました。

本マニュアルを作成するにあたり、下記の方々をはじめ、

多くの方々や関係機関にご協力を賜りました。

心より感謝申し上げます。

五十音順、県関係者の所属は省略

＜情報・データ提供＞

沖縄協同青果株式会社

沖縄県農業協同組合農業 振興本部営農販売部（青果）・生産資材部

スガノ農機株式会社

第一農薬株式会社

琉球産経株式会社

琉球肥料株式会社

＜写真提供＞

沖縄県植物防疫協会

＜編集協力＞

沖縄県農林水産部

営農支援課農業革新支援班

農業研究センター

北部農林水産振興センター農業改良普及課

宮古農林水産振興センター農業改良普及課

南部農業改良普及センター

病虫害防除技術センター

安次富 厚氏

棚原 尚哉氏

上里 卓己氏

比嘉 基晶氏

上原 弘樹氏

儀間 靖氏

神里 春樹氏

長浜 隆市氏

喜久村 智子氏

細川 理恵氏

座波 幸司氏

宮城 明生氏

島谷 真幸氏

宮城 徳道氏



令和7年発行

沖縄県特別栽培農産物栽培マニュアル

作物編 キュウリ

監修・発行 沖縄県農林水産部営農支援課
沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL: 098-866-2280

編集 株式会社マイファーム

意匠・印刷 カラーズプロダクション

